

令和 5 年度吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)実施状況

【用語について】

- ・初回/非初回：過去 3 年度以内に、吹田市胃がん検診の胃部エックス線検査及び胃内視鏡検査の検診受診歴がある場合は「非初回」、受診歴がない場合は「初回」に分類

【受診率の算出方法】

全国、大阪府と比較をするため、国が示す方法に基づき算出。

胃がん検診においては、50 歳～69 歳が対象。

- ・対象者数 = 当該市町村に居住地を有する各がん検診の対象年齢の全住民
- ・受診率 = $((\text{前年度の受診者数}) + (\text{当該年度の受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度における 2 年連続受診者数})) / (\text{当該年度の対象者数}) \times 100$

【要精密検査者について】(不完全実施は除く)

- ・要精密検査者：胃内視鏡検査は、①内視鏡検診時に生検を受診した者と、②内視鏡検診時には生検を受診しなかったが、二次読影判定で要再検査(B-1,D)となった者
- ・検診時生検受診者：胃内視鏡検査時に生検を受診した者
- ・検診時生検受診のうち要再検査者数：二次読影判定で要再検査(B-3,D)となった者
- ・要精密検査検診時生検未実施：胃内視鏡検査時に生検を受診しなかったが、二次読影判定で要再検査(B-1,D)となった者
- ・精密検査受診者：検診時の生検の結果の報告があった者、精密検査実施機関から再検査の結果の報告があった者、並びに再検査受診者から受診日、実施機関、検査法及び検査結果の報告があった者
- ・胃がんのうち早期がん：がんの浸潤が粘膜内か粘膜下層に留まるもの。リンパ節転移の有無は問わない。
- ・胃がんの早期がんのうち粘膜内がん：がんの浸潤が粘膜内に留まるもの

【プロセス指標※の算出方法】

- ・要精検率 = $\text{要精検者数} / \text{受診者数} \times 100$
- ・精検受診率 = $\text{精検受診者数} / \text{要精検者数} \times 100$
- ・早期がん割合 = $\text{早期がん} / \text{がん発見数} \times 100$
- ・がん発見率 = $\text{がん発見数} / \text{受診者数} \times 100$
- ・陽性反応適中度 = $\text{がん発見数} / \text{要精検者数} \times 100$

※プロセス指標とは…がん検診精度管理指標のひとつ。がん検診事業は大まかに受診者の募集、スクリーニング、精密検査への誘導、精密検査、事業評価のプロセスに分かれているが、プロセス指標は各プロセスが適切に行われているかを評価するための指標。厚労省は平成 20 年度に各プロセス指標値の基準値（許容値・目標値）を決定し公表している。

1 受診者数

(1) 年次別胃がん(胃内視鏡検査)検診受診者数及び受診率

表 1-1 令和 2 年度～令和 5 年度 (4～9 月) 胃がん検診(胃内視鏡検査)実績 (50 歳～69 歳)

50歳～69歳	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度(4～9月)		
	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計
対象者数	89,195			91,592			93,809					
受診者数	721	814	1,535	1,095	648	1,743	1,115	685	1,800	517	259	776
受診率	0.7%	1.9%	2.6%	1.8%	1.2%	3.0%	2.2%	1.1%	3.3%			
初回受診者数	512	210	722	743	160	903	645	191	836	248	93	341
初回の割合	71.0%	25.8%	47.0%	67.9%	24.7%	51.8%	57.8%	27.9%	46.4%	48.0%	35.9%	43.9%

「参考」令和 2 年度受診率比較 (50～69 歳)

	全国 ¹⁾	大阪府 ²⁾	吹田市
受診率	7.0%	4.2%	2.6%

出典：1)令和 2 年度地域保健・健康増進事業報告
2)大阪府健康医療部作成「大阪府におけるがん検診」

表 1-2 令和 2 年度～令和 5 年度 (4～9 月) 胃がん検診(胃内視鏡検査)実績 (全年齢)

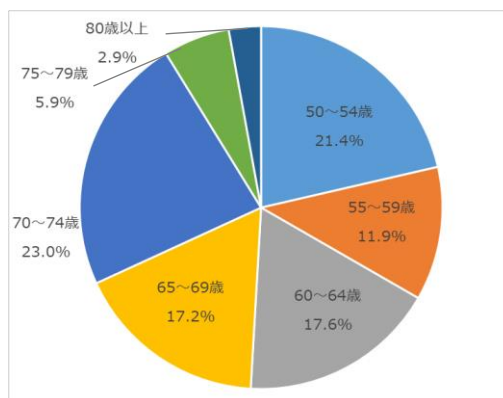
全年齢	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度(4～9月)		
	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計
受診者数	1,033	1,342	2,375	1,560	1,080	2,640	1,636	1,104	2,740	812	434	1,246
初回受診者数	701	280	981	1,038	209	1,247	871	245	1,116	341	118	459
初回の割合	67.9%	20.9%	41.3%	66.5%	19.4%	47.2%	53.2%	22.2%	40.7%	42.0%	27.2%	36.8%

【結果】

- ・令和 4 年度の 50～69 歳の受診率は、内視鏡検査・エックス線検査を合わせると 3.3%であった。
令和 3 年度と比べ 0.3%上がっているが、令和 2 年度について全国・大阪府と比較すると低い(表 1-1・参考)。
- ・内視鏡検査の受診者数は、50～69 歳においても全年齢においても年々増加している(表 1-1・表 1-2)。
- ・内視鏡検査の初回受診者の割合について、令和 2 年度から 5 年度にかけて年々減っている(表 1-1・表 1-2)。
- ・令和 2 年 1 月(令和元年度)より胃内視鏡検査を開始し、令和 2 年度はエックス線検査の受診者が多かったが、令和 3 年度以降は内視鏡検査受診者が上回っている(表 1-1・表 1-2)。

表 1-3 令和 4 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)性別年齢階級別受診者数

年齢階級	受診者数(人)		
	男性	女性	合計
50～54歳	97	253	350
55～59歳	48	147	195
60～64歳	96	192	288
65～69歳	116	166	282
70～74歳	184	193	377
75～79歳	42	55	97
80歳以上	29	18	47
合計	612	1,024	1,636

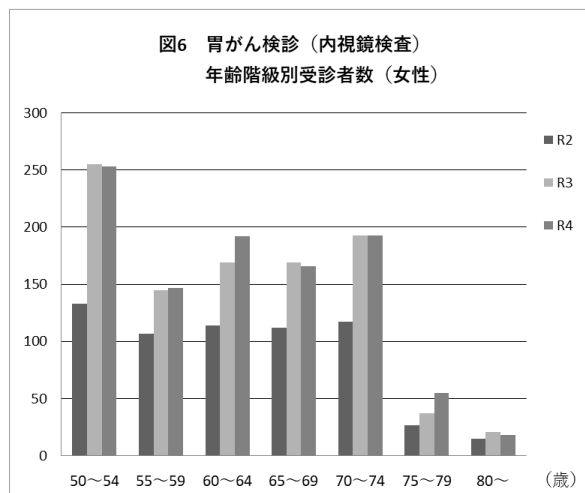
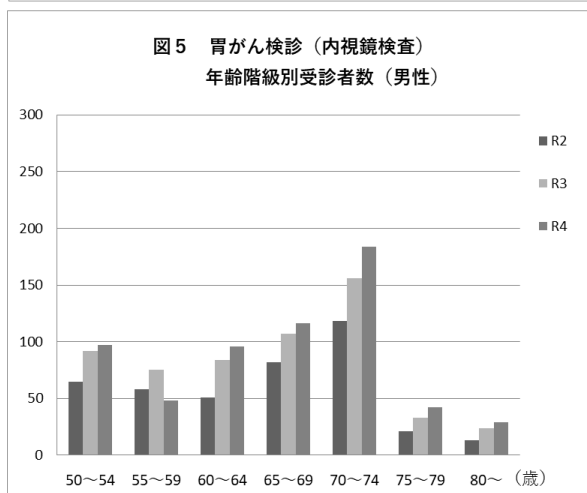
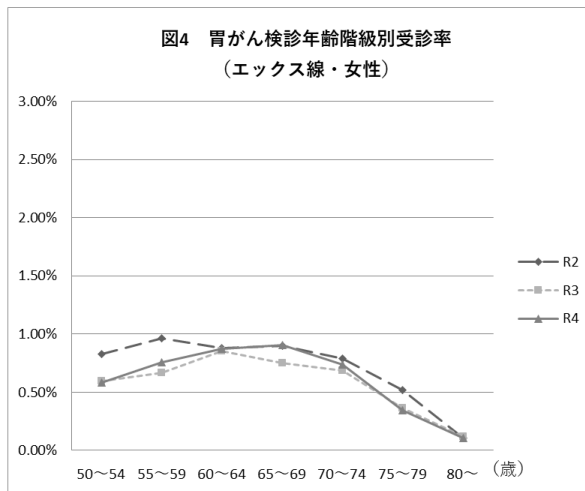
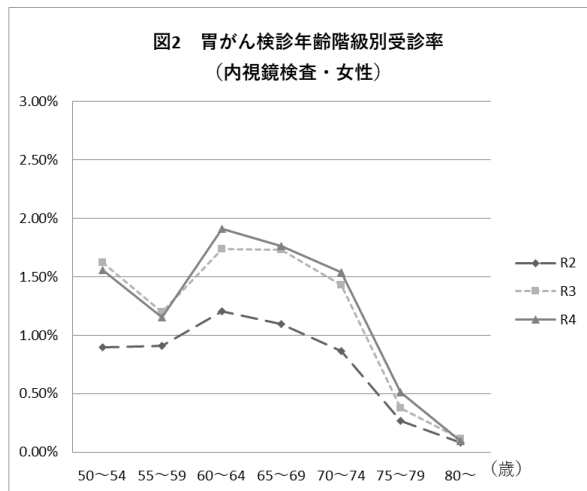
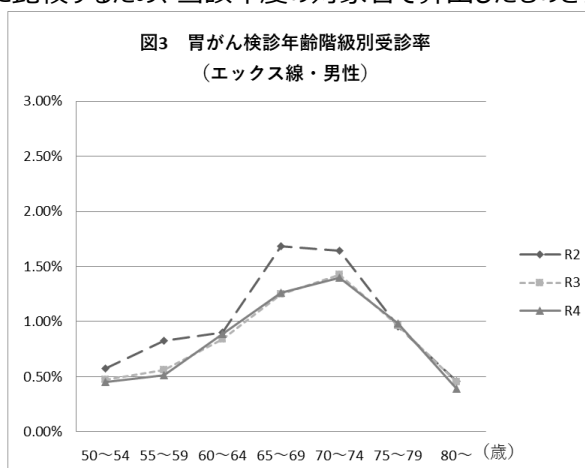
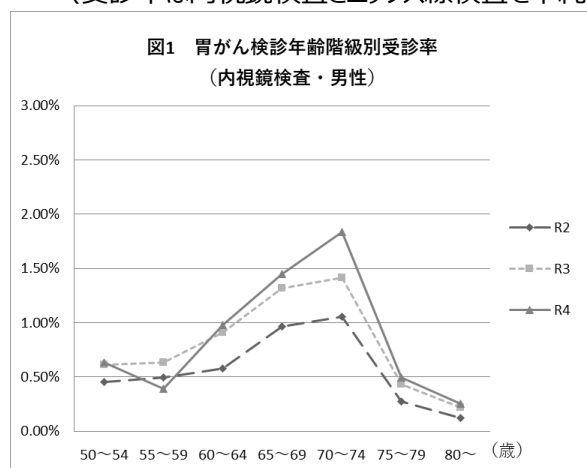


【結果】

- ・令和 4 年度の内視鏡検査での男女別受診者数を比較すると、男性は 70～74 歳が 184 人と最も多く、次いで 65～69 歳が多い。女性は、50～54 歳が 253 人と最も多く、次いで 70～74 歳が多い。
- ・受診者合計は女性 1,024 人、男性 612 人で、女性は男性の約 1.7 倍多く受診している。

(2) 胃がん検診男女別、内視鏡検査・エックス線検査別年齢階級別受診率

(受診率は内視鏡検査とエックス線検査を単純に比較するため、当該年度の対象者で算出したものとする)



【結果】

- 令和4年度の年代別受診率について、男性は内視鏡検査・エックス線検査ともに70~74歳の受診率が最も高く、次いで65~69歳が高い(図1・3)。女性は、内視鏡検査は60~64歳、エックス線検査は65~69歳が最も高い受診率である(図2・4)。
- 受診率の年度ごとの推移について、内視鏡検査は50~59歳以外の年代では令和3年度より4年度が増加の傾向にある(図1・2)。エックス線についてはほぼ横ばいである(図3・4)。
- 内視鏡検査の受診者数では、男性は55~59歳以外すべての年代で増加しており、女性は55~64歳と75~79歳で増加している(図5・6)。

2 生検

表 2-1 令和 4 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)生検実施状況

生検結果	Group1	Group2	Group3	Group4	Group5	X	その他(胃)	その他(食道)	その他(十二指腸)	総計	生検率
人数	124	3	4	0	3	0	0	6	0	140	8.6%

表 2-2 令和 5 年度(4~9 月)胃がん検診(胃内視鏡検査)生検実施状況

生検結果	Group1	Group2	Group3	Group4	Group5	X	その他(胃)	その他(食道)	その他(十二指腸)	総計	生検率
人数	71	1	0	0	0	0	2	3	0	77	9.5%

Group 1 : 正常組織および非腫瘍性病変	Group 2 : 腫瘍(腺腫または癌)か非腫瘍性が判断の困難な病変
Group 3 : 腺腫	Group 4 : 腫瘍と判定される病変のうち、癌が疑われる病変
Group 5 : 癌	Group X : 生検組織診断ができない不適材料

【結果】

- ・生検率は令和 4 年度 8.6% (表 2-1)、令和 5 年度(4~9 月)9.5% (表 2-2) であり、生検目標値の 10%以下を達成している。

「参考」胃内視鏡検査の許容値

生検導入時	15%以下
生検目標値	10%以下

出典：対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル

3 読影判定

表 3-1 令和 4 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)一次読影判定及び二次読影判定

		二次						総計
		A	B-1	B-2	B-3	C	D	
一 次	A	1,487	2	1	0	1	2	1,493
	B	8	0	110	0	0	0	118
	C	3	0	1	0	20	0	24
総計		1,498	2	112	0	21	2	1,635

表 3-2 令和 5 年度(4~9 月)胃がん検診(胃内視鏡検査)一次読影判定及び二次読影判定

		二次						総計
		A	B-1	B-2	B-3	C	D	
一 次	A	729	0	0	0	1	0	730
	B	2	2	64	0	0	0	68
	C	3	0	1	0	9	0	13
総計		734	2	65	0	10	0	811

A 異常なし	B 胃がんを疑う所見あり
B-1 当日生検なし、胃がんを疑う所見あり	B-2 当日生検あり、生検部位に胃がんを疑う所見あり
B-3 当日生検あり、生検部位以外に胃がんを疑う所見あり	
C 胃がん以外の悪性疾患またはその疑い	D 読影部位が不足しているため判定不能

【結果】

- ・D 判定(読影部位が不足しているため判定不能)の者は、令和 4 年度で 2 人、令和 5 年度(4~9 月)では 0 人であり、令和 4 年度の 2 名はそれぞれ違う医療機関であった。

4 要精検者について

表4 年次別胃がん検診(胃内視鏡検査・エックス線)要精検者内訳

		令和2年度					令和3年度					令和4年度					令和5年度(4～9月)				
		胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計
		生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計		
受診者数		1,033			1,342	2,375	1,560			1,080	2,640	1,636			1,104	2,740	812			434	1,246
要精検者数		116	7	123	97	220	216	7	223	74	297	140	4	144	57	201	77	2	79	28	107
精検受診者数		116	4	120	90	210	215	4	219	65	284	136	2	138	54	192	74	1	75	16	91
要精検率		11.2%	0.7%	11.9%	7.2%	9.3%	13.8%	0.4%	14.3%	6.9%	11.3%	8.6%	0.2%	8.8%	5.2%	7.3%	4.7%	0.1%	4.8%	2.5%	3.9%
精検受診率		100.0%	57.1%	97.6%	92.8%	95.5%	99.5%	57.1%	98.2%	87.8%	95.6%	97.1%	0.0%	95.8%	94.7%	95.5%	96.1%	50.0%	94.9%	57.1%	85.0%
精 検 結 果 内 訳 (人)	異常なし	1	1	2	2	4	16	2	18	8	26	13	0	13	5	18	1	0	1	3	4
	胃がん	3	0	3	2	5	3	1	4	1	5	4	0	4	1	5	1	0	1	0	1
	胃がん疑い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1
	胃がん以外の疾患	112	3	115	86	201	196	1	197	56	253	118	2	120	48	168	71	1	72	13	85
	胃ポリープ	19	0	19	13	32	36	0	36	7	43	19	0	19	16	35	12	1	13	3	16
	胃・十二指腸潰瘍(瘢痕含む)	13	0	13	4	17	16	0	16	6	22	12	0	12	4	16	6	0	6	0	6
	胃びらん	38	0	38	1	39	68	1	69	1	70	34	1	35	1	36	29	0	29	0	29
	胃炎	26	2	28	52	80	51	0	51	34	85	34	1	35	23	58	16	0	16	6	22
	その他	16	1	17	16	33	25	0	25	8	33	19	0	19	4	23	8	0	8	4	12
未受診/未把握		0	3	3	7	10	1	3	4	9	13	4	2	6	3	9	3	1	4	12	16
がん発見率		0.29%	0.00%	0.29%	0.15%	0.21%	0.19%	0.06%	0.26%	0.09%	0.19%	0.24%	0.00%	0.24%	0.09%	0.18%	0.12%	0.00%	0.12%	0.00%	0.08%
陽性反応適中度		2.59%	0.00%	2.44%	2.06%	2.27%	1.39%	14.29%	1.79%	1.35%	1.68%	2.86%	0.00%	2.78%	1.75%	2.49%	1.30%	0.00%	1.27%	0.00%	0.93%

「参考」令和2年度(全年齢)

全年齢	大阪府			吹田市		
	内視鏡	エックス線	総計	内視鏡	エックス線	総計
要精検率	12.6%	5.4%	7.0%	11.9%	7.2%	9.3%
精検受診率	98.0%	83.9%	89.6%	97.6%	92.8%	95.5%
がん発見率	0.53%	0.13%	0.22%	0.29%	0.15%	0.21%
陽性反応適中度	4.2%	2.3%	3.1%	2.44%	2.06%	2.27%

「参考」エックス線検査の許容値

要精検率	11.0%以下
精検受診率	70%以上
がん発見率	0.11%以上
陽性反応適中度	1.0%以上

【結果】

- ・内視鏡検査とエックス線検査を比較したところ、要精検率・精検受診率・がん発見率・陽性反応適中度は令和2～5年度全てで胃内視鏡検査の方が高い。
- ・内視鏡検査とエックス線検査合計の要精検率は、令和3年度をピークに徐々に下がっている。
- ・内視鏡検査のがん発見率は年々減少傾向にある。エックス線検査のがん発見率は、令和3年度・令和4年度は許容値0.11%を満たすことができていない。
- ・エックス線検査の陽性反応的中度は許容値を満たしているが、令和2年度の結果で見ると大阪府全体の結果よりは低い。

5 胃がんであったケースの詳細

令和 4 年度胃内視鏡検査において「胃がんまたは胃がん疑い」と診断された者は 5 名であった。

個人情報保護の観点により、詳細な内容は非公開とします。

6 検診実施医療機関別プロセス指標

個人情報保護の観点により、詳細な内容は非公開とします。